

特集

平成20年岩手・宮城内陸地震

「復旧だ、見せよう、栗原のそこ方(栗原市社協スローガン)」

宮城県栗原市と岩手県奥州市を中心に被害をもたらした、平成20年6月14日の岩手・宮城内陸地震。被災地では一日も早い復興を目指し、力を合わせて皆さんがんばっています。

災害とは言っても、地震、台風、噴火など様々です。また、被災地は都市部なのか山間部なのか、さらには地域性を考慮すると、被災地支援

の進め方は一概に語れるものではありません。「地域力」のあるまちづくりに向けて、地域住民の皆さんとともに、協力がどう対応したらよいでしょうか。

今回の地震を振り返り、発災時から7月末までの取り組みと今後について、栗原市社会福祉協議会総務課の狩野昭彦さんに、ご寄稿頂きました。

岩手・宮城内陸地震

平成20年6月14日(土)午前8時43分頃、岩手県内陸南部を震源地とした強い地震があり、栗原市一迫で震度6強を観測しました。同日午前9時20分頃、宮城県北部を震源地とした栗原市で、震度4を観測した最大余震がありました。

災害対策本部設置 6月14日(土)

午前10時に、熊谷栗原市社協会長を本部長とする災害対策本部を設置しました。

9支所17事業所の被害状況把握を行うとともに、介護保険事業所等の利用者で、一人暮らし等の方々の安否確認を行いました。

この地震は、土砂崩落、路肩決壊、並びに法面崩壊等の被害をもたらした。栗原市花山から秋田県へ続く国道398号線や栗駒岩鏡平への(主)築館栗駒公園線などの栗駒山周辺の道路を寸断し、通行止めにするほか、ライフライン(水道、電気、電話)も寸断し、山間部に多大な被害をもたらしました。

当日県社協の主催で、イズミティ21で行われる予定であった「災害ボランティアシンポジウム」が中止となり、登壇予定のシンポジストと県社協職員5名が先遣隊として指導に来て下さいました。その後引き続き県社協より職

発災から復興に向けた動き

ここでは、地震発生から7月末までの動きをご紹介します。

災害対策本部設置 6月14日(土)

午前10時に、熊谷栗原市社協会長を本部長とする災害対策本部を設置しました。

9支所17事業所の被害状況把握を行うとともに、介護保険事業所等の利用者で、一人暮らし等の方々の安否確認を行いました。

当日県社協の主催で、イズミティ21で行われる予定であった「災害ボランティアシンポジウム」が中止となり、登壇予定のシンポジストと県社協職員5名が先遣隊として指導に来て下さいました。その後引き続き県社協より職

災害ボランティアセンター設置見送り 6月15日(日)

市内の被災情報を確認し、被害の激しかった栗駒文字・鶯沢・花山地区を4班に分け、市社協推進委員長、行政区长並びに民生委員児童委員宅へ聞き取り調査に伺いました。

その結果、避難地区を除く多くの世帯では、被災日が土曜日ということもあり、市内外の家族・親戚等の援助をもらい、石灯笼等の余震で再度転倒するような物は除き、ほとんどの後片付

重点支援特区設定

6月16日(月)

栗駒文字地区・花山地区の2地区を重点支援特区と定めました。

6月18日(水)

栗駒文字地区・花山地区の70歳以上の一人暮らし高齢者世帯を、3〜4班集体で巡回訪問を開始し、自主避難所「栗駒文字藍の館」にもニーズ調査、運営支援に入りました。

栗原市ボランティアセンター緊急ボランティア会議 6月24日(火)

市内の登録ボランティア並びに協力団体等に活動の状況報告を行うとともに、復旧活動の充実を目指すことを確認しました。

自主避難所解散 6月27日(金)

断水等の解除により、自主避難所「栗駒文字藍の館」と「栗駒滝の原コミュニティセンター」が自主解散しました。

「災害支援本部」に名称変更 7月4日(金)

社協本来の任務である被災者への一層の支援を目指して、名称の変更と組織の再構築を行い、ボランティア班をボランティア支援班と避難所支援・重点特区支援班に細分化しました。

花山地区サロン「お茶っこ会」開催 7月14日(月)

被災者を対象に、毎週月・木曜日の午前10時〜11時30分、ボランティア4〜10名で行いました。最初は避難所近くの交流館で行いましたが、その後、仮設住宅整備に合わせて仮設住宅近くの湖畔の里へと会場を移しました。

生活支援相談員配置 7月15日(火)

花山支所が宮城県共同募金会の配分を受け、生活支援相談員2名を配置し、栗駒・花山地区の仮設住宅を巡回訪問し、入居者の相談、支援を行っています。

避難所閉鎖

第二・三次の仮設住宅整備を受け、7月21日(月)に「栗駒伝創館」、31日(木)に「花山石楠花センター」の避難所が閉鎖されました。これを受け、栗駒地区の避難所並びに栗駒文字地区でのサロン「お茶っこ会」等の開催を計画しています。

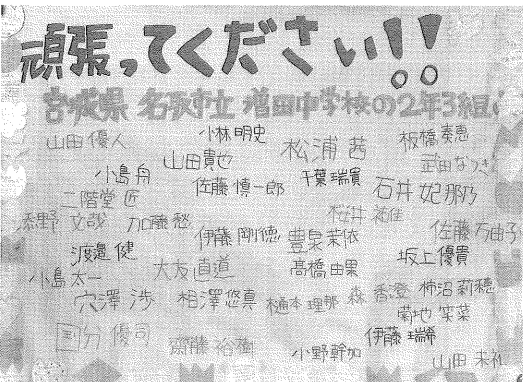
今後の展望

長引くであろう避難生活に潤いと活力が持てるよう支援をし、また、必ず来ると言われている宮城県沖地震に備え、地区社協のより一層充実した整備を行います。

感慨



震災発生後、2週間程は記者からの電話や取材に追われ、本来の業務に支障をきたしました。災害ボランティアセンター設置見送りへの質問が多く、設置すれば良いという記者の認識の足りなさや不勉強さが伺えました。なかには、「良い画が撮れない」等と被災者に対する理不尽な言葉も聞かれました。しかし、今回の震災に際し、市内外・県外の特種資格取得ボランティアの方々を始め、全国の方々から心あたたまる励ましのメッセージやお手紙、並びに金品のご寄付をいただきました。本当にありがとうございます。



▲名取市立増田中学校2年3組の皆さんからの言葉

【お問い合わせ先】
栗原市社会福祉協議会
〒987-2252
栗原市築館薬師三丁目6番2号
TEL 0228(23)8070
FAX 0228(22)6012

(栗原市社会福祉協議会)
狩野昭彦さん寄稿

コーディネート職員配置 6月19日(木)

市内の登録ボランティア並びに協力団体等と連携を取り、市ボランティアセンター機能によりニーズへの対応ができるよう、調整していくことを再確認しました。

自主避難所「栗駒文字藍の館」にコーディネート職員1名、翌日は避難所「花山石楠花センター」と「栗駒伝創館」、そして自主避難所「栗駒滝の原コミュニティセンター」

にコーディネート職員2名をそれぞれ派遣し、閉鎖になるまで各避難所等でのニーズの把握、